

簡易認知機能スケール あたまの健康チェック[®]

(英名：The MCI Screen)

従来の認知機能検査法では評価の難しかった 65 歳未満の若年層やもの忘れの訴えない健常～ MCI 領域群における認知機能の客観的定量観察に適した、国際的評価の高い新しい簡易認知機能スケールです。検査後に算出される認知機能の状態を表す MPI (Memory Performance Index) は、0-100 の値で経時変化観察に適し、定期的な状態観察やリスク要因の治療や予防介入の効果観察にも適しています。ADAS-Cog Memory Task を基に開発された被検数 100 万件を有する人口統計評価法により、被検者が抵抗感を感じることなく安定した高精度な客観評価が可能です。

スケールは検者の職種・職能を問わないため、厚生労働省が積極的に推進する医師・コメディカルの働き方改革にも寄与する ICT 技術です。従前、1 件あたり医療職の時間を 30 分程度要していた検査プロセス (実施・評価・データ管理) を独自の ICT 技術で 10 分に大幅短縮。また本スケールは、音声対話が成り立てば検査実施が可能なため、電話やリモート技術を用いた遠隔検査実施にも対応し、運用面での汎用性も高く、施設運営の円滑化にも寄与します。



松田
博史
先生



認知症予防においては、もの忘れの訴えない中年期からのリスク管理と生活習慣改善が重要とされている。今後、脳ドックにおける定期的な認知機能の経時変化評価はこれまで認知機能検査を受ける機会のなかった受診者層が機能低下予防に対する強い動機をもつ機会となる。MMSE 等の従来の認知機能検査法が保険適用となったことから、脳ドックにおける新たな認知機能検査法として、本検査の積極的な運用検討が勧められる。本検査は、MRI 画像分析技術のひとつである VSRAD との相関を示す研究成果もあり、実務の現場において MRI / MRA、VSRAD との併用が推奨される。

【国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター / VSRAD 開発総監督】

島田
裕之
先生



本スケールは、信頼性と妥当性が確保された代表的な認知機能検査であり、研究、臨床、保健活動において広く用いられている。特筆すべきは健常者と MCI を有する者との判別能が高く、精度 97%、感度 95%、特異度 88% と報告されている。これは、現状で一般的に実施される各種認知機能検査より高精度であるといえる。認知症の予防のためには、対象者の異常を早期に発見し予防活動を推進することが重要であり本検査は重要な役割を持つ。潜在的な認知症予防の対象者の把握、定量的な予防介入の効果観察に有益であり、広く活用されることが望まれる。

【国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学センター長】

伊賀瀬
道也
先生



予防医学の観点からは中年期からの広域な認知機能スクリーニングや予防教育の実施が必須であるが従来の認知機能検査法では健常～MCI 群の評価や若年層の評価が難しいという課題があった。健常～ MCI 群を対象とする予防介入研究や内分泌・循環器にかかる研究における認知機能指数として大変有用であり抗加齢予防医療センターの抗加齢ドック検査項目や MCI 外来、様々な研究時のアウトカム指標として、当学では 2006 年から採用。検者の知識や経験に左右されることのない、高い inter-rater、test-retest reliability を持つ安定した認知機能評価法である。

【愛媛大学医学系研究科抗加齢医学講座 教授 / 抗加齢予防医療センター長 (日本脳ドック学会所属)】

一般社団法人日本脳ドック学会 認定施設における採用事例

洛和会音羽病院 健診センター

当センターの脳ドック受診者層は 40～60 歳が中心であり、従来検査法では、陽性の場合「認知症の疑いあり」となるため受診されない傾向があります。「できることならば予防の余地がある、より早期の前駆的な状態で知りたい」というのが脳ドックの受診者さまから聞かれる潜在的な声でありました。

当院では 2017 年度から「あたまの健康チェック®」を採用しており、当該検査では、陽性の場合でも「MCI の疑いあり」と、認知症には至らずまだ健常な状態であるが認知機能に微細な変化を検出したとの結果を案内できるようになり、受診者の機能低下予防に対する正しい知識や意欲を向上させられる検査として有効に活用できています。



医療法人桜十字 桜十字病院 健診センター

昨今、増加している認知症は社会問題となっているため、受診者の皆様からの検査ニーズも高まっています。いまだ有効な治療法がなく、現時点では予防あるいは発症を遅らせることが唯一の対策となります。このため、脳ドックで MCI（軽度認知障害）の状態を早期に見つけ、早い段階で生活習慣を改善することの意義は認知症予防にとって小さくありません。

当院では、若年層や健常群から認知機能の定量評価が行える「あたまの健康チェック®」を取り入れることで、地域における認知機能低下の早期の予防啓発・促進につながる取り組みに寄与して参ります。

大分県厚生連健康管理センター

当センターは、大分県では初めて「あたまの健康チェック®」を認知機能低下の訴えない方にも幅広く受診いただける、新しい認知機能チェック検査として導入しました。脳ドックにおける認知機能検査だけでなく、単独のオプション検査として症状の有無に関わらず、希望の方には受検していただいています。

学会ガイドラインでは「認知症予防は中年期から」との位置づけが示され、中年期から認知機能低下予防を目指した定期的な認知機能の状態把握とリスク管理を提供し、健診受診者の皆様に満足していただけるような健診施設として今後も努めていきたいと考えます。



公益財団法人操風会 岡山旭東病院 健康センター

当院は「脳・神経・運動器疾患の総合的専門病院」として 1991 年 7 月に脳疾患・血管障害の予防をめざして岡山下初の「脳ドック」を開始しました。学会認定施設として、ガイドラインに準拠した検査内容を提供することを心がけています。

本学会でも推進される中年期からの認知症予防を地域で推し進めるため、若年層から受けられ認知機能状態の経時変化がとらえやすく、MCI 判別能の高い「あたまの健康チェック®」を当院では、2020 年度より脳ドックのオプション検査として提供を開始し、今後、脳ドックの標準検査項目とすることを予定しています。



あたまの健康チェック®ウェブサイト
millennia-corporation.jp

お問い合わせ・ご導入相談はこちら

